

# 道徳的実践の定着をめざす計画と実践

足利市立三和小学校 助川 甲一 池田 フミ

## 1. はじめに

校庭のゴミ拾いをする教師の姿を見て、登校すると6年生がゴミを拾いはじめた。一人増え、ふたり増え、それが、さらに全校的に広がり、進んで、落葉やゴミを拾う子どもの数が目立って多くなってきた。

また、卒業期を迎えた6年生が、昼休みを返上して、校地を横切る用水路の土さらいははじめるなど、望ましい行為を望見することが多くなってきた。

一父兄からこんな電話も受けた。道端の空缶を拾っている子どもを見かけたので、是非ほめてあげてほしい。

そんな反面、依然として廊下を走る子が後を絶たない。

教師のわきを小走りに通りぬけようとする子どもを呼びとめると、「どうもすみません。」「これから気をつけます。』と、子どもたちは、みな同じような言葉を返してくる。「これから何を気をつけるの。』と、問い返すと「廊下を走らないようにします。』と答える。

未発達な子ども達であるから、高い次元の要求をするわけではないが、とにかく、知識として理解はしているがなかなか実践できないのが現実である。

学校に於いては、日常生活の基本的行動様式をはじめとする道徳的実践の指導の徹底をはかることを期待されている今日、道徳的実践の定着をめざして、次のような基本的な考えに基づき計画し、実践を試みてみた。

## 2. 道徳的実践の定着をめざすための基本的な考え方

(1) 学校教育目標及び道徳教育目標の具現化をめざすことは、道徳的実践の定着を図ることにある。そのためには、まず、学校における道徳教育を進める上での基本となる道徳教育の全体計画の見直しをし、特に今までの本校の全体計画に欠落していた道徳的実践の指導の内容と場の設定、その実践の場である学校、家庭・地域社会との連携のあり方を明確にする。

(2) 道徳的実践は、道徳の時間に培われた道徳的実践力に大きく支えられている。そこで、いつでも、だれでも、ある程度の水準の指導効果が期待できる年間指導計画、特に展開の大要までを示したものに高める。

## 3. 道徳的実践の定着をめざす全体計画の改善

(1) 全体計画改善の視点

児童の道徳的実践の定着をめざした全体計画の改善を志向し、改善の視点として次の4つの柱を定め、これを中心として改善を試みた。

#### ① 児童の実態に即した計画

道徳教育の全体計画に限らず、すべての教育活動の計画に当たっては、児童の実態を的確にとらえ、それをふまえて計画しなければならないことは言うまでもない。

しかし、現実には、児童の実態の把握に甘さがあったり、また、せっかく児童の実態をとらえていながら、それが必ずしも全体計画の中に生かされていない傾向にあった。

とにかく、あたりまえのことではあるが、児童の実態を的確にとらえ、児童の実態と遊離しない計画こそ、道徳的実践をめざすものと考えた。

#### ② 父母の願いや足利市の教育目標を取り入れた計画

教育の計画に当たっては、父母の願いや社会の要請に対して大きく耳を傾けることが大切である。まして、学校と家庭、地域社会との連携をはかりながら児童の道徳性を高めていくためには、父母の願いや地域社会の要請を適切に取り上げることは、1つの大きな条件と言えよう。

学校からの家庭や地域社会への適切な働きかけに地区住民が共感し、意識が高まったとき、はじめて道徳的実践の定着が図れるものとする。

そこで、調査に基づく父母の声と共に、足利市の教育目標を十分に取り入れ、改善を図ることとした。

#### ③ 道徳的実践の内容と場を明らかにした計画

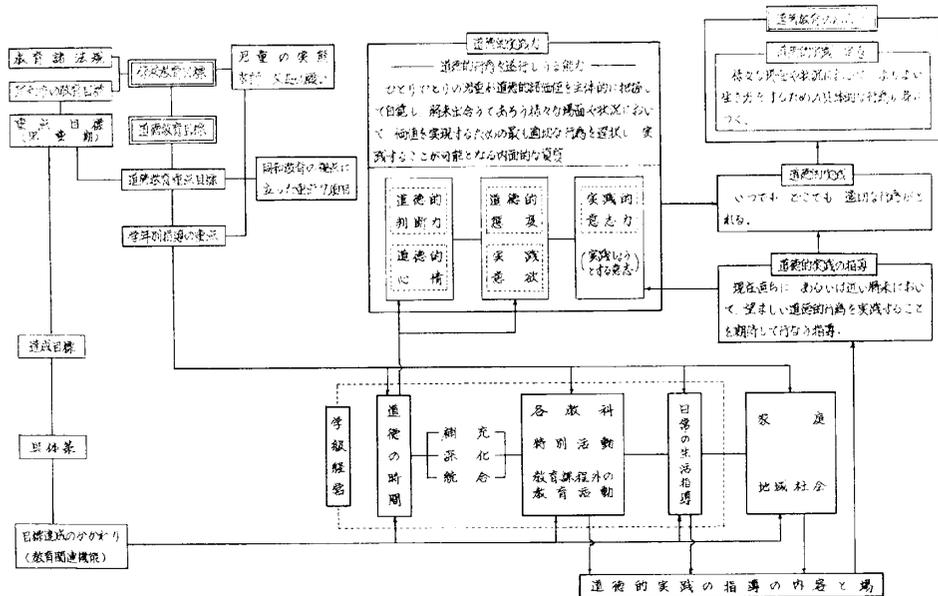
児童の道徳的実践を定着させるには、まず児童の実態を的確に把握し、その実態に即して、計画的、組織的な指導が大切である。

実践をとおして育成されるものは、さしあたっては実践しようとする意志を中心とした実践的能力である。この意志が根源となって道徳の実践指導の効果は、一層高められ継続的指導によって、やがては道徳的実践の定着が図られるものとする。従って、この指導に当たっては、全教育活動、さらに家庭や地域との連携の中で、何をどのように指導するかが明確にされ、全体計画の中にはっきりと位置づけられ、それに基づき、それぞれの教育機関が共通理解をもって、意図的、計画的に指導することが大切であろう。

#### ④ 家庭や地域社会との連携を明らかにした計画

我が子のよりよい成長を願わない親はいないはずである。しかし、学校と家庭、地域社会との連携が不十分であるために、往々にして問題が起これり、間にはさまる児童が当惑することもある。とかく学校は、校内だけの教育に目を奪われ、そこから一歩外へ視野を広げようとする努力に欠ける傾向がある。子どもは、学校だけでなく、家庭や地域社会を含めた中で生活している。このことを考えたとき、学校を取りまく学校、家庭、地域という教育環境が同じ方向に向いて、それぞれの機能を十分に発揮できたら、子どもの成長にとって効果的であろう。

## (2) 道徳教育全体計画の改善の構想



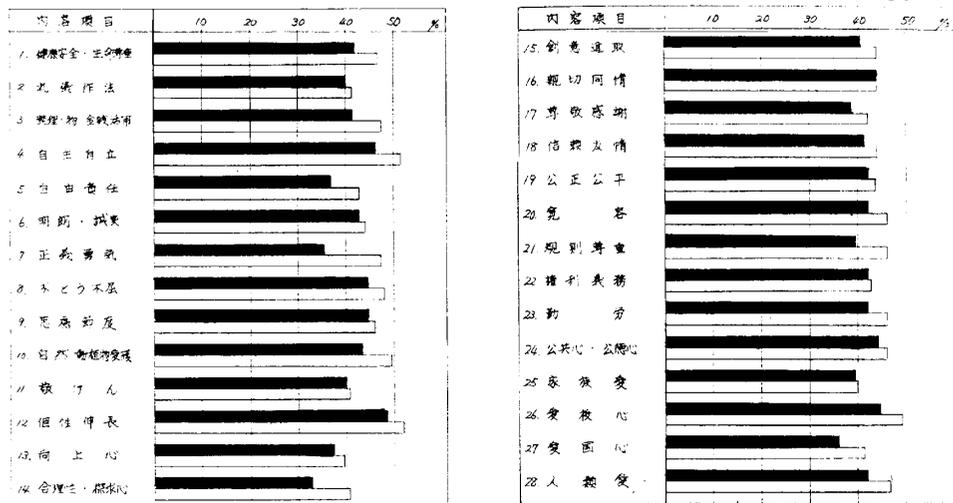
## (3) 改善のための資料とその考察

### ① 児童の実態

#### ア 道徳性の達成率 (教研式新道徳性検査より)

道徳性の達成率については、全国・本校とも全学年の達成率を単純に加算し、全校的傾向をみることにした。そして、本校の児童の達成率が高く、しかも、全国の達成率に比較して差の少ないものを「好ましい傾向」とし、達成率が低く、全国と比較して著しい差のあるものを「指導を要する項目」としておさえた。検査の結果は、次のとおりである。

道徳性の達成率

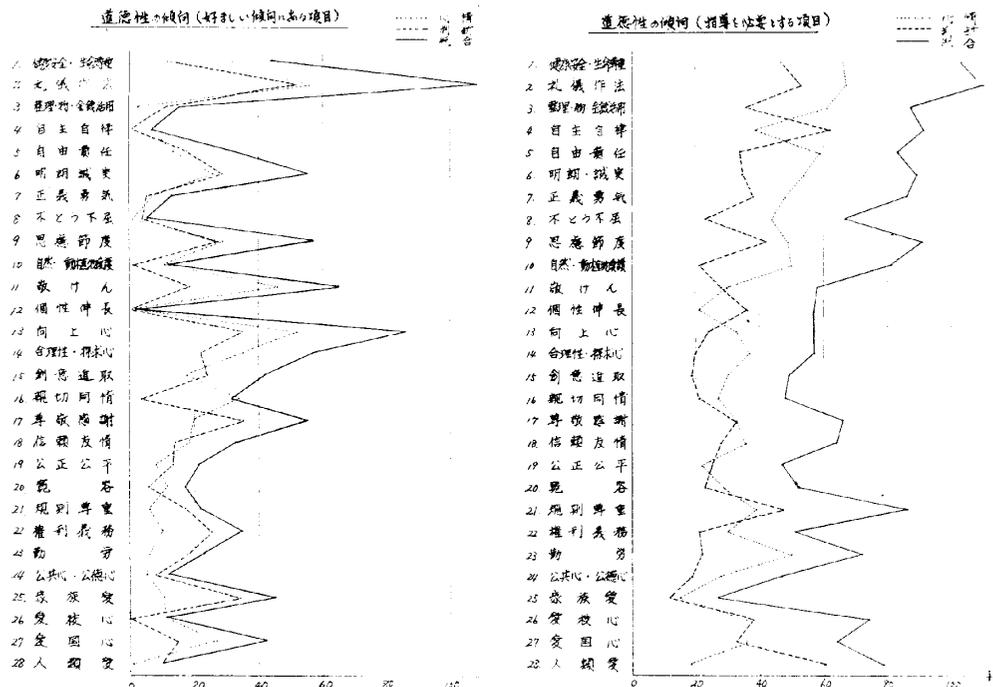


結果の考察

好ましい傾向	礼儀作法, 明朗誠実, 思慮節度, 敬けん, 親切同情, 公正公平, 権利義務
指導を要する項目	整理・物・金銭活用, 自由責任, 正義勇気, 自然・動植物愛護, 合理性・探究心, 規則尊重, 愛国心

イ 個人の道徳性の全校的傾向（教研式新道徳性検査より）

道徳性の傾向については、個人のプロフィールより、よかった項目（好ましい傾向にある項目）、指導が必要な項目をそれぞれ内容項目ごとに全校的に集計し、道徳性の全校的傾向をみることにした。集計の結果は次のとおりである。



結果の考察

好ましい傾向	礼儀作法, 明朗誠実, 思慮節度, 敬けん, 向上心, 合理性・探究心, 尊敬感謝
指導を要する項目	健康安全・生命尊重, 礼儀作法, 整理・物・金銭活用, 自主自律, 明朗誠実, 正義勇気, 思慮節度

教研式新道徳性検査の信頼度については、下記のような結果で、かなり信頼性があるものと判断している。

信頼度	A (高い)	B (普通)	C (低い)
人数	152人	213人	19人
割合	40%	55%	5%

## ウ 父母からみた児童の道徳性の実態

この項の実態の把握については、先進校の資料を一部修正し、次のようなアンケート形式によって実施した。

先進校からのアンケート質問紙 資料(2) 活用、修正

このアンケートには、あなたの子供が所属する学校の児童が回答するものと想定して、回答してください。回答は、ご自身の回答としてください。

アンケートの目的は、子供の道徳性の実態を明らかにし、その改善に努めることにある。回答は、ご自身の回答としてください。

1	受身の前には手洗いをしている。	
2	必要事項を知らせる。ことに従っている。	
3	挨拶をする。高らかなる。受身をする。ことである。	
4	礼儀正しく振舞う。態度が清潔で、清潔に保つておく。	
5	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
6	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
7	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
8	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
9	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
10	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
11	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
12	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
13	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
14	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
15	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
16	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
17	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
18	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
19	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
20	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
21	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
22	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
23	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
24	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
25	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
26	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
27	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
28	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
29	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	
30	挨拶は、おはようございます。おはようございます。おはようございます。	

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

## 結果の考察

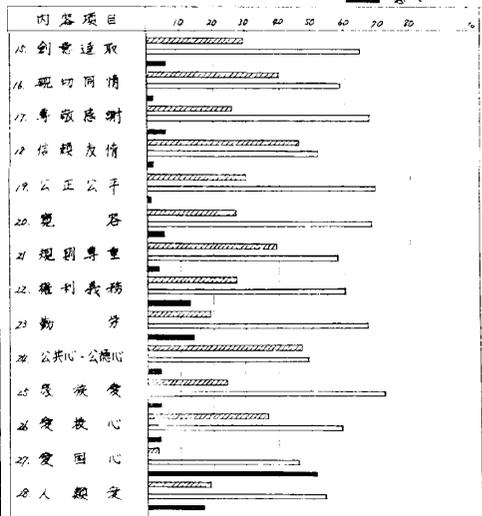
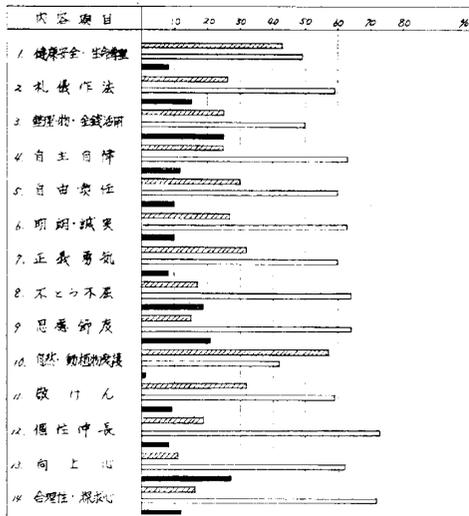
このアンケート調査の結果の信頼度については、設問に問題があり、価値内容のある一面しかみられなかったり、一部設問によっては不適切なものがあつた。

例えば、愛国心については「国民の祝日に関心を持ち、進んで国旗を掲げようとしているか。」という設問については、「悪い」という反応が最上位を示している。

追跡調査の結果、家庭に国旗のある家が少なく、掲揚できないために、このような結果になってしまった。

とにかく、設問の吟味が足りず設問が不適切で、結果をそのまま受けとめることには問題があると考えている。

## 父母からみた児童の実態



好ましい傾向	健康安全・生命尊重, 自然・動植物愛護, 親切同情, 信頼友情, 規則尊重, 公共心・公德心, 愛校心
指導を要する項目	礼儀作法, 整理・物・金銭活用, 不とう不屈, 思慮節度, 向上心, 愛国心, 人類愛

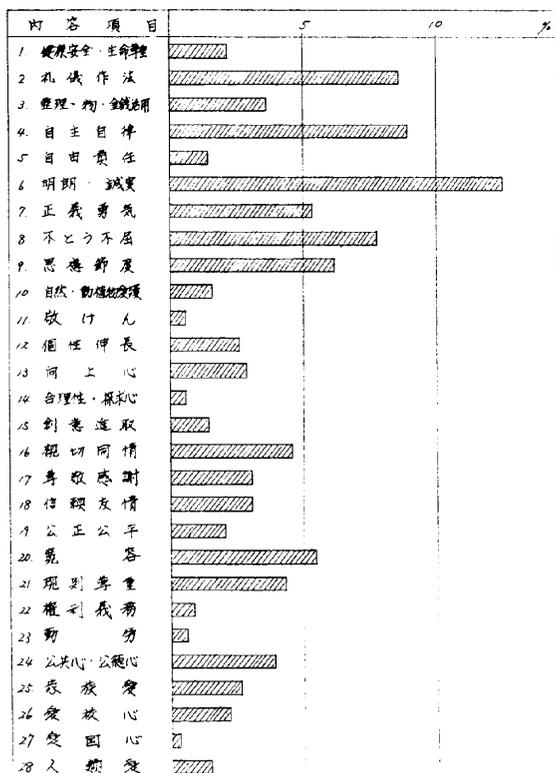
エ 教師からみた児童の道徳性の実態

教師についても父母と同様のアンケートを用いて調査をした。

結果の考察

好ましい傾向	健康安全・生命尊重, 自然・動植物愛護, 尊敬感謝, 勤労, 愛校心
指導を要する項目	礼儀作法, 自主自律, 不とう不屈, 向上心, 公正公平, 愛国心, 人類愛

② 父母や教師の願い



上記のアンケートを用い、これからの子どもの教育にとって、特に大切だと思われることを5つ選んでもらった結果は次のとおりである。

結果の考察

父母の願い	礼儀作法, 自主自律, 明朗誠実, 正義勇気, 不とう不屈, 思慮節度, 公正公平
-------	---

教師の願い	礼儀作法, 自主自律, 明朗誠実, 不とう不屈, 個性伸長, 向上心, 寛容
-------	--



(5) 道徳実践の指導の内容と場の設定

① 設定にあたっての基本的な考え方

ア 目標は実践可能なものをできるだけ数少なく掲げ、指導したことが確実に身につくようにする。

イ 実践の場は、学校生活だけに限らず、広く家庭や地域社会にも求める。

道徳的実践の指導の内容と場

重点7項目	指導の内容	実践の場				生活目標
		各教科	特別活動	その他の活動	日常生活	
2. 礼儀作法 3. 整理・物 金銭活用 4. 自主自律 7. 正義勇気 8. 不とり不屈 13. 向上心 16. 親切同情	○ 차례에도 인사할 수 있다. ○ 안녕하세요. ○ 감사합니다. ○ 죄송합니다. ○ 미안합니다. ○ 감사합니다. ○ 잘 부탁드립니다. ○ 잘 부탁드립니다.	・学習の始業 終業時			・家での生活 ・学校での生活 ・学校の行き 帰り	○ 明るく、 ○ 落ち着いた ○ 姿勢を 保ち、 ○ 静かに 学習する。 ○ 休み時間 は、外へ 出て元氣 よく遊ぶ。
	○ 友達と親しくする。 ○ 下級生のめんどうを見る。 ○ 困っている友だちに手助けをする。		・委員会活動 ・クラブ活動 ・宿泊学習 ・部活動	・給食準備 ・希望の教室 (ゆりの時間) ・部活動	・集団下校 ・たてわり清掃	
	○ 最後までがんばる。	・作品の製作 (国語・家庭) ・観察 (理科)	・探り活動 ・運動会 ・宿泊学習 ・徒歩遠足 ・マラソン大会	・部活動		

② 指導にあたっての基本的な考え方

ア 教師と児童，児童相互の信頼関係を基盤にして，終始一貫した指導方針で，優しさの中にも厳しさのある指導をする。

イ 全職員の共通理解を図り，全校体制で，しかも同歩調で意図的，計画的に，くり返し指導をする。

4. 学校における道徳的実践の指導

とかく，今までは，やれ生活目標だ，清掃目標だ，今週のめあてだと，子どもに要求する目標がいたずらに多く，目標だおれになる傾向があった。

そこで，本校では，反省の上に立って，それぞれの目標の精選をはかるとともに，有機的な関連をはかり，子どもに示す目標が最少限になるように努めた。

このような観点から，道徳的実践の指導の内容も，学校経営計画や学級経営と一貫性をもたせるとともに，生活目標とも関連をはかり，指導の徹底を図ることにした。

◇ 学校教育目標達成のための重点目標  
具体目標

重点目標	具体目標	達成状況
1. 読書を通して 豊かな心を育む	① 読書の楽しさを体験し、読書習慣を身につける。 ② 読書の楽しさを伝え、自ら読書する習慣を育てる。	① 読書の楽しさを体験し、読書習慣を身につける。 ② 読書の楽しさを伝え、自ら読書する習慣を育てる。
2. 心の豊かな 人間性を育てる	① 読書の楽しさを体験し、読書習慣を身につける。 ② 読書の楽しさを伝え、自ら読書する習慣を育てる。	① 読書の楽しさを体験し、読書習慣を身につける。 ② 読書の楽しさを伝え、自ら読書する習慣を育てる。

◇ 学校経営目標達成のための努力目標

学校経営目標	経営の方向	努力目標	達成状況
1. 美しい、ゆたかな学校づくり	① 学習の楽しさを体験し、読書習慣を身につける。 ② 読書の楽しさを伝え、自ら読書する習慣を育てる。	① 読書の楽しさを体験し、読書習慣を身につける。 ② 読書の楽しさを伝え、自ら読書する習慣を育てる。	達成状況

◇ 具体目標達成のための具体策

実施時期	実施内容	実施状況
10月	読書の楽しさを体験し、読書習慣を身につける。	達成状況
11月	読書の楽しさを伝え、自ら読書する習慣を育てる。	達成状況

◇ 学級経営計画（6年）

学級目標	内容	達成状況
互いに認め、励まし合い、仲良く協力する。	① 学校生活のなかで、男子には「ん、女子には「ん」と呼んで呼ぶ。 ② 正しい言葉づかいで、友達と話ができる。	達成状況
友達のよさを認め、励ましあう。	① 友だちに対して「ありがとう、さよなら」の挨拶をする。 ② 来客に対して会釈をする。 ③ 目上の人へ会釈をする。 ④ オススメ運動を伝える。	達成状況
友達のよさを認め、励ましあう。	① 友だちには、それだけよいところがあることと理解する。 ② 友だちの努力を認め、拍手（手拍子）をあげる。 ③ 友だちが困っているのを見つけたら手伝う。 ④ 「思いやり」の木、運動を運ぶ。 ⑤ 「思いやり」の花巻、折紙。 ⑥ 「思いやり」のカート、にんぎょ、北とほ。 ⑦ 「思いやり」の木、に名前を掲げる。 ⑧ ミニ表彰式をする。 ⑨ 友だちのよさを認め、励ましあう。	達成状況

(1) あいさつ運動

道徳的実践の内容の1つである「だれにでもあいさつができる。」ことについては、最高学年として、学校の具体策を全面的に受けて上記のように学級経営計画に位置づけ、「だれにでも、きちんとあいさつをしよう」という反省カードを用いて、到達目標の達成をめざして推進をはかった。

だれにでも きちんとあいさつしよう

10月		6年2組							合計
場面	曜日	月	火	水	木	金	土	日	
朝のあいさつ		○	○	○	○	○	○	○	6
仲りのあいさつ		○	○	○	○	○	○	○	6
来客へのあいさつ		○	△	○	○	○	△	○	4
目上の人への会釈		△	○	○	○	○	○	○	5
やさしい人へのあいさつ		○	△	○	○	○	△	△	4
合計		4	3	5	5	5	3	0	50

反省  
友達のよさを認め、励ましあう。は出来たがまだ来客へのあいさつに努力が必要だ。  
11月には○ばかりの表にするように目上の人やお客さんには自分からさきに声をかけてあいさつをしよう。それ以外の声かけは、みんなに声をかけてあげよう。

- …… だれにでも きちんとあいさつできた。
- △…… あいさつ 会釈ができていないときがあった。
- ×…… ほとんど あいさつ 会釈ができていなかった。

(2) 「思いやりの木」運動

① 学校経営計画との関連

目標	実践の場	具 体 策 (実践要項)	進捗状況
ウ 友だちのよいところを見つけれらる。	道徳時間 学級活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>到達目標 友だちのよいところを見つけれらる。</li> <li>友だちには、それぞれよいところがあることを理解する。 (まとして 道徳——親切同情、信頼愛情) 学級指導——適応指導)</li> <li>友だちの努力を認め、拍手(伊褒)をする。</li> <li>友だちのよいところを、口頭で発表する。</li> </ul>	達成 予定
エ 友だちのよいところを見つけれらる。	学習時 授業後 帰りの会		

② ねらい

「思いやりの木」運動を通して、心の豊かな思いやりのある子を育てる。

③ 具体的な方策

ア 到達目標についての具体的な行為を1日の反省の時間に話し合う。

イ 発表されたものについては、みんなで称賛する。

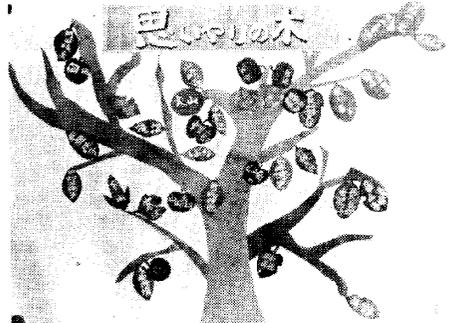
ウ 発表されたよい行為を、よい子のカードに記録し、よい子の賞としてシールをはる。

エ よい子のカードに、よい子の賞が10個になったら、クラスの「思いやりの木」に

よい子の氏名を掲示し、ミニ表彰式を行う。

よい子のカード

日・日	こ と が ら	よい子
9月11日	同じ登校班の一年生が「おなかがいいたい」が理由で泣いていた時に、休食まで連れて行ってあげた。その先生がみえるまで泣いていてあげた。	●
9月20日	運動会が自給の時間にからかい返す人があつて、泣いて困っていた。見かねた先生が、お話を聞いてくれた。お話を聞いてくれた先生が、お話を聞いてくれた。	●
9月27日	お話を聞いてくれた先生が、お話を聞いてくれた。	●
10月2日	お話を聞いてくれた先生が、お話を聞いてくれた。	●
10月9日	先生さんが給食で牛乳を飲んだ。お話を聞いてくれた。	●
10月30日	お話を聞いてくれた先生が、お話を聞いてくれた。	●
11月17日	お話を聞いてくれた先生が、お話を聞いてくれた。	●
11月24日	お話を聞いてくれた先生が、お話を聞いてくれた。	●



5. 家庭や地域社会との連携による道徳的実践の指導

家庭や地域社会の教育力が、児童の道徳性の育成に大きな影響力をもつことはいうまでもない。そこで、心豊かな児童の育成をめざして、本校学区内の家庭・地域社会・学校・保育所等が一体となって、地域の教育力を高め、幼児から成人に至るまで、人間としての生き方を深く考える姿勢の上に立って「あいさつ運動」に地域ぐるみで取り組み実践をしてきた。

(1) 幼保・小・中の連携

今までも保・小・中間で授業参観や懇談会等を通して連携をはかってきた。

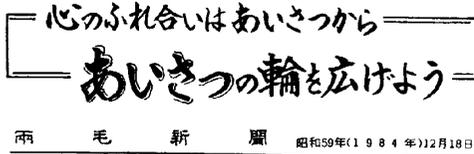
さらに、基本的生活習慣についての重点指導項目として「あいさつ運動」をとり上げ、保・小・中の一貫性をもった指導体制を整え、推進をはかった。

— 坂西青少年 健全育成モデル地区 —

望ましい生活習慣 (全家歳時示用)

習慣化	児童・生徒	父母・家庭	地域ぐるみ
○朝起きたら	「おはようございます。」	「おはよう。」	近所や一隣の子とつながる。かけあふるを励み、励ましあふる。
○寝る前	「おやすみなさい。」	「おやすみ。」	
○外出のときは	「いってきます。」	「行ってらっしゃい。」	
○帰ったときは	「ただいま。」	「おかえり。」	
○道徳的な言葉	「お礼を言います。」、「今日は。」	「お礼を。」、「今日は。」	
○訪問のとき	「ごめんとさ。」、「失礼します。」	「いらっしゃい。」	
○お礼を言うとき	「ありがとうございます。」	「はい、はい。」など	
○あやまるとき	「どうもすみません。」	「はい、はい。」など	
○えいよく	・相手に面を向く。軽く握手をする。	・えいよくはなす。	

(2) 地域諸団体との連携



昭和59年(1984年)12月18日

**あいさつ運動の看板**  
**地域12カ所に設置**  
 三和地区「こんにちは」かわそ

「こんにちは」かわそは、三和地区の各小学校に設置された「あいさつ運動」の看板です。この看板には、「こんにちは」「こんばんは」という挨拶の言葉が記されています。この看板の設置は、地域の皆様への挨拶の呼びかけを目的としています。また、この看板の設置は、地域の皆様への挨拶の呼びかけを目的としています。



1984-12-20 三和小学校地区あいさつ運動推進協議会

地域ぐるみで「あいさつ運動」に取り組み、より効果を高めるために、青少年育成会、地区非行防止対策連絡協議会、PTA等に働きかけ、あいさつ運動推進協議会を設置し、その事業の一環として、本校学区内6町内に、それぞれ2箇所ずつ看板を設置し、「あいさつ」の輪を広げる運動を起こした。

また、この運動をより強力に推進するために、自治会の協力を得てチラシを配布し、啓発活動を行った。



(3) 家庭との連携

直接子どもの教育にかかわりを持つ父母の教育力を高め、連携を深めることは、道徳的実践の徹底をはかる上から最も大切である。

そこで、あいさつ運動をより高めるために、町内懇談会を開催し、「ありがたいが言えない」というあいさつ運動の一環としての映画を上映した。

そして、映画を中心とした話し合いを通して、家庭からもあいさつの輪を広げることを確認し合った。

6. 道徳的実践力を育てる年間指導計画

(1) 活用しやすい年間指導計画

道徳的実践力を育てるということは、道徳の時間のめざす目標であり、それは、道徳の時間の充実を意味するものである。

道徳の時間の充実をめざすためには、活用しやすい年間指導計画でなければならない。

そこで、本校では、活用しやすい年間指導計画への改善をめざして、次のような点に配慮して改善を試みた。

ア 全体計画に基づく年間指導計画

年間指導計画の作成にあたっては、基本となる全体計画に基づき作成しなければならないことは、言うまでもない。しかし、とかく道徳教育の全体計画がなおざりにされる傾向がある。

計画の作成にあたっては、主題のねらいや主な発問、資料等だけに目をうばわれず、1時間1時間の計画が学年としての指導の重点にどう結びついていくかを志向しながら作成しなければならない。このように、全体計画に基づいた年間指導計画こそ、児童の実態に即し、活用に値する年間指導計画と思われる。

イ 主題配列と他教科・特別活動との関連

(5年) 道徳指導計画との関連表

内容項目	学年の指導の重点	月					
		4	5	6	7	8	9
1 道徳安全・生活性							
2 生活性	○						
3 道徳的行動	○						
4 自主責任	○	◎					
5 自由責任	○		◎				
6 明朗誠実	○			○			
7 正義勇気	○		○			◎	
8 不屈不屈	○						
9 思慮節度		○	○				○
10 自然動植物							
11 敬							
12 個性伸長		◎					
13 向上心	○	○					
26 愛敬心							
27 愛国心							
28 人徳							
他との関連	各教科						
	特別活動	○	○				
	その他の活動						
	日常生活			○			

級化を考慮したとき、必ずしも固定的なものではない。

しかし、ある程度の水準の授業が期待でき、しかも、だれもが容易に指導に取り組める体制を整えるためには、資料の選定とともに、できるだけ取り組みやすい展開例を示すことが、活用しやすい年間指導計画となり、ひいては、道徳的実践力の育成につながるものと思う。

年間指導計画の基本となる年間の主題の配列にあたっては、学級指導、学校行事、生活目標等とできるだけ密接な関連を保つことが必要であろう。

年間指導計画の中に他との関連という項を設け、それぞれの主題と関連づけ、それを更に補充したり、深化したり、統合したりすることにより、指導の効果をより高めることができると思われる。

ウ 具体的な指導の展開例

ここで示す展開例は、年間指導計画の学道徳指導計画カード

学道徳指導計画カード		学年	6年	学期	10月
主題名	わたしだけが	指導内容	16	親切同情	時数 /
ねらい	○ 眞の親切同情は、他人の身に於て力と益とを伴はねばならないことを理解し、自らも不幸の人に強ひて押しつけがましい態度を有する。				
資料	わたしの心 (橋本和久著 教育資料 一部改作)				
展開例	<p>(1) 悲しい顔の教子の顔を見ながら、わたしは、どんな気持ちになりましたか。</p> <p>(2) みんなが笑ったとき、どんな気持ちで笑ったのでしょうか。</p> <p>3. わたしがみんなといっしょに笑ったとき、教子は、どんな気持ちになりましたか。</p> <p>4. ほんの少しだけ、わたしは、どんな気持ちで、どんな顔をして、みんなと笑ったのでしょうか。</p>				
まとめ	<p>○ 初小児童関係 (学級指導)</p> <p>○ 満足… 級中展開 (物語 四コマ)</p>				
発展	<p>○ 友達の話を聞え (新しい生活)</p> <p>○ みんなのお見ま (認知症 指導資料 活用)</p>				

## エ 教師自らの手による年間指導計画

いかにすばらしい計画であっても、他から与えられたものでは、児童の実態からかけはなれ、指導にあたっての教師の主体性、開発性も半減するであろう。その上、実践にあたって、必ずとまどいを感じるものである。

活用される年間指導計画の前提としては、まず、全教師が共通理解を図り、教師自らの手によって作成されることが大切になってくるであろう。

要は、全教師が自らの手によって具体化を図り、作成することによって、道徳の時間の年間指導計画は活用され、児童の道徳的実践力の育成とあわせて、道徳的实践がより身についたものになると考えられる。

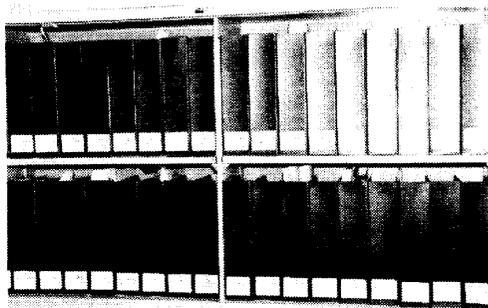
なお、絶えず、授業実践をとおして加除訂正し、改善をしていくことが肝要である。

## (2) 資料の整備と保管

道徳的実践力を育てる年間指導計画の改善にあたっては、ねらいや主なる発問等、ある程度の水準の指導効果が期待できるように作成することはもちろんのこと、主題にふさわしい資料を選定し活用しやすい状態に整備することが大切であろう。

そこで、本校では、学年別、指導内容別に資料を収集し、整備、保管している。

また、授業研究等で指導案を作成した場合には指導案とそのときに準備した資料をファイルし、いつでも、だれでも、活用しやすい状態に整備し指導の効率を高めるようにしている。



## 7. おわりに

学校課題の追求という大きな課題と並行して、これまた大きな問題である道徳的実践の定着をめざした道徳教育の全体計画と年間指導計画の改善に着手したが、改善資料の収集のための調査の実施、集計等、全職員が一体となって、ようやくにしてまとまったという段階である。

従って、実践というにはまだほど遠いものがあるが、計画に基づき、一步一步着実に実践を積み重ねていきたい。

研究体制が分散し一部の教師が中心となってまとめたということはいなめないが、この改

善の過程において、資料の分析や考察、目標や内容の設定等、全職員が討議を重ねる中で、それぞれの教師が何かをつかんだのではないかと考えている。

それが、ある時は今までの道德教育の実践の反省材料として、また、これからの実践の裏付けとなって、本校の道德教育の推進の大きな糧となることを確信している。

幸いにして、家庭や地域の諸団体の強力なバックアップのおかげで、この改善を機会に一層の連携が深まり、家族ぐるみ、地域ぐるみの指導組織が整い、一歩実践へと歩み出したことは、大きな意義があった。

## 今後の課題

1. 道德的実践の定着をはかるためには、まず道德の時間の指導の充実をはかり、道德的実践力を高め、さらには実践しようとする意志まで発展させる必要がある。そのためには、早急に、授業実践に基づく道德指導計画カード（展開の概要）の作成と、資料（読み物資料、絵、ペープサート、T・Pシート、スライド等）の整備をはからなければならない。
2. 廊下を走っている子に出会っても、それに対する教師の対応はさまざまである。道德的実践の指導にあたっては、少なくとも、そのことに対して、まず教師が同じ方向に向って指導しなければ成果の上がらないことを痛感している。

職員の研修の場をとおして、具体的な、あたりまえのことから共通理解を深め、教師自らの道德教育に対する意識を高めていく必要がある。

3. 家庭や地域社会との連携については、組織ができ、事業を行えば、あたかも子どもたちに道德的実践が身についたような錯覚に陥り易い。児童の実態を調査や関係諸団体との話し合いをとおし把握に努め、それに対応して、地区全戸へのチラシの配布、町内懇談会、学年・学級懇談会等をとおして、たえず啓発に努め、地域ぐるみで継続指導を進めていかなければならない。

## 評

最近の児童生徒の状況から、学校における道徳教育の充実に大きな期待が寄せられています。なかでも、基本的な生活習慣の指導については、大きな期待が集まっています。

三和小学校においては、道徳的実践の定着をめざして、今までの計画と実践を見直し、「道徳的実践の指導の場の設定」、「家庭や地域社会との連携」など、学校経営の視点から、指導に一貫性をもたせるよう改善に取りくまれました。

学根経営の視点から、自校の道徳教育の実践を見直し、改善を図ることは、道徳教育を充実させる上で極めて大切なことでもあります。また、道徳的実践力を育成する道徳の時間の充実を図ることは、習慣形成上、極めて大切な指導でもあります。

この面についても、三和小学校の取りくみは、大きな示唆を示しています。

道徳的実践の定着をめざす上での望ましい教師の在り方としては、教師自身、児童生徒と共に、実践することだと考えます。好きな教師の言葉や行動を模倣し、その人格に薫化されていく姿は、教育の本来の姿だと思います。